２学期がスタートしました！

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。この夏、様々な経験を経て、心も体も一回り大きく成長した子どもたち。実りの秋に向けて、２学期も多くのことに挑戦していきたいと思います。

まだまだ油断できない暑さが続きます。熱中症予防のため、学校ではこまめな水分補給を促し、無理のない活動を心がけます。ご家庭でも、朝食をしっかりとり、十分な睡眠時間を確保するなど、体調管理にご配慮ください。また、朝夕の気温差も大きくなってまいりますので、衣服の調節などにもご注意ください。

２学期も子どもたちが充実した学校生活を送れるよう、教職員一同、尽力してまいります。保護者の皆様のご理解とご協力を引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

一部教科での担当のローテーション化を実施していきます。

時代はグローバル化が進み、より多様な価値観の中で他者と接していくことが求められる時代となってきました。学校教育の中でも、こうした時代の変化に対応して、できるだけ多くの他者（友だちだけでなく教職員、地域の方々、他の学校の児童等も含めて）と関わる中でさまざまな考え方や価値観に触れ、より柔軟で多面的な物事の捉え方ができる児童を育成していくことが求められています。また、一人の固定した学級担任だけが子どもたちの指導に当たるのではなく、複数の教員が子どもの指導・支援にあたる「チーム担任制」という考え方も広まりつつあり、南アルプス市でも、市教育委員会が「チーム担任制の段階的導入」を提唱しています。（2ページ以降に紹介します。）

具体的に本校では、次のように実施していきます。（詳細は学年だより等でご確認ください）

学年内担任交換

①道徳　２学期から、学年内で担任がローテーションして実施する。

②算数　２学期から、単元ごとに、学年内で担任が交代して実施する。

例：３年　９月　あまりのあるわり算・・・１組担任が２組を指導する。
２組担任が３組を指導する。
３組担任が１組を指導する。
１０月　１万より大きい数・・・・１組担任が３組を指導する。
２組担任が１組を指導する。
３組担任が２組を指導する。

※２年生のかけ算九九など、日常の習熟が必要で担任が指導した方が効果的な場合は、この限りではありません。

ブロック内担任交代

あやめっこタイム　２学期から、学年内及びブロック内で担任がローテーションして実施する。

「チーム担任制」の段階的導入について

南アルプス市教育委員会　学校教育課

１．はじめに

長い間、学級経営については、「学級王国」という言葉に象徴されるように、一つの学級を一人の教員が責任を持って対応する担任というスタイルがスタンダードになっていました。近年、「チーム担任制」「複数担任制」「学年担任制」など形態は異なるものの、学級担任を一人に固定しないで、複数の教員で担ったり、学級担任という枠組みを外して学年全体を複数の教員で対応したりするといった仕組みを導入する地域や学校が少しずつ増えてきています。

こうした動きは、教員不足や働き方改革が喫緊の課題となる中、業務分散による負担軽減を図るとともに、複数の目で子どもを見守るというねらいもあるといわれています。「複数の目で子どもを見守る」という視点は、現状の喫緊課題への緊急対応というだけでなく、すべての人が質の高い教育を受けることができるように環境を整えるという、インクルーシブ教育の理念にもつながるところがあります。

２．チーム担任制の目的

チーム担任制の最大の目的は、児童生徒を主語にして、教員と児童生徒が**多面的な理解**と**多様な関わり**で結びつく関係性を意図的につくり出すために、児童生徒と教員間、保護者と教員間、教員同士のななめの関係性を築くことです。つまり、固定的な学級担任制を廃止することではなく、

■全教職員で全校児童生徒を見つめる仕組みをつくる
■学級の垣根をなくす
■隣のクラスをつくらない

といったところにあります。一人の児童生徒に対して、多面的な理解と多様な関わりをするには、学級担任一人で行うことは難しいです。この関係性を生み出すために、チーム担任制は必要なシステムの一つになります。

これまでの固定的な学級担任制では、学級指導とは学級担任と学級児童生徒の強固な人間関係づくりであり、担任と児童生徒相互の関係性を基本としたシステムでした。そうなると各学級への学級担任以外の指導は関与するのが難しくなり、学級担任の困り、学級児童生徒の困り、学級の保護者の困りは、学級内で解決すべきものとなり、学級外に持出することを不可という暗黙の了解が生まれることになりました。このことが、学級担任の孤立や学級崩壊につながっていたことは否めません。

困りを持つ教員や学級を相互に助け合い支え合いながら、チームとして対応することで、教員や学級だけでなく、児童生徒・保護者が孤立しない、孤立させない、互いの困りを相談し合い、一人一人のよさを活かし合うことができるシステムをつくることが可能となります。学級担任制でも同じことができるという考え方もありますが、学級担任という垣根を低くしていく教員の意識改革こそが多様な関わりを実現していくためには重要になってくるのだと思います。

３．メリットと課題

■こんなメリットが・・

（１）負担が軽減される

・担任交代制やチームによる教科担任制で授業準備にかかる業務量や負担が軽減

（２）指導の質が向上

・学習指導に関しては若手教員の増加による指導力格差を広げない
・若手がベテランと組むことで指導方法を学べる
・チームによる教科担任制をとることで同じ授業を複数クラスで繰り返すため、授業力が向上
・分担によって空き時間ができ、教材研究が充実

（３）人材育成

・新規に採用された教員や若手教員の人材育成につながることが期待できる
・若手教員にとって働きやすい環境を目指すことができる

（４）児童・生徒にとって多くの教師と出会う機会が広がる

・多くの教師の考えや思いを知ることで、人間としての幅が広がり、多面的な考え方ができるようになる
・いろいろな先生と触れ合うことで、子どもたちの気分転換を図れたり、新鮮な気持ちで授業を受けられたりする
・担任との相性や関係性の課題が軽減される

（５）その他にも

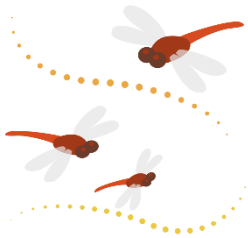
・各学校で推進されている（中学校区で統一の）「学習スタンダード」の定着があるので、児童生徒にとって学習方法に不安や負担が少ない
・教員の児童生徒への指導に対する保護者からのクレーム等を一人で抱え込まず、チーム（学年）として対応できる。また、そもそも複数の教員で子どもたちを見てくれている安心から、保護者対応も減る？のではないかと思われる【クレームから相談へ】

■考えられる課題・・

一方で、チーム担任制が促進されていくと聞かれる課題としては、児童生徒および保護者アンケートなどから「ある先生にお願いしたことが、他の先生に伝わってない」「誰に話せばよいかわからなかった」などコミュニケーションの問題が指摘されています。また、「責任が曖昧になる」といった指摘は、多様な子どもへの対応という観点から大きな不安材料になっているといえます。

４．最後に

いずれにしても、**一つの学級に、一人の児童生徒に、複数の教員が関わっているということが重要**であると考えます。このことが、保護者や地域に伝わり、保護者の理解や安心につながっていくことで、現在課題となっている「児童生徒と担任の関係性」や「担任の指導力格差や経験値」といったことの解消の一助となることを期待しています。

学校現場の共通の課題である「不登校」の問題も、学校に適応できない児童生徒をいかに減らしていけるかがポイントだと考えます。今ある学校現場の環境（施設や人員）の中で、今できることとしてこの「チーム担任制」が一つの対応策になるのではないかと考えています。

今年度、各学校でできることから取り組み、子どもたちの声を聴きながら、その効果や課題を持ち寄り、南アルプス市全体で、教育の質の向上を目指していきたいと思います。